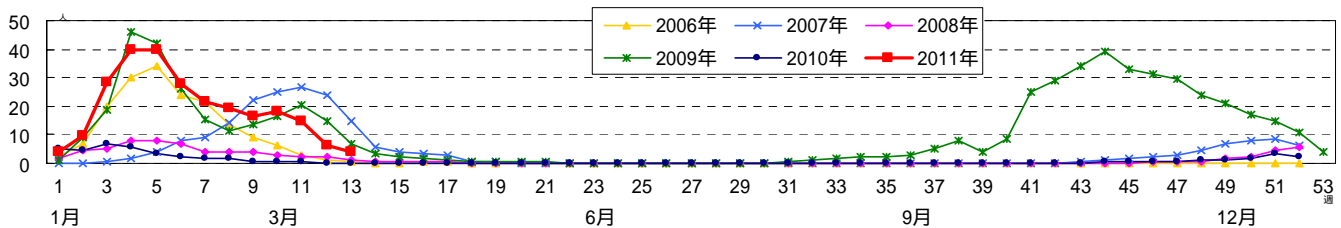


# 横浜市インフルエンザ流行情報 12 号(第 13 週)

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

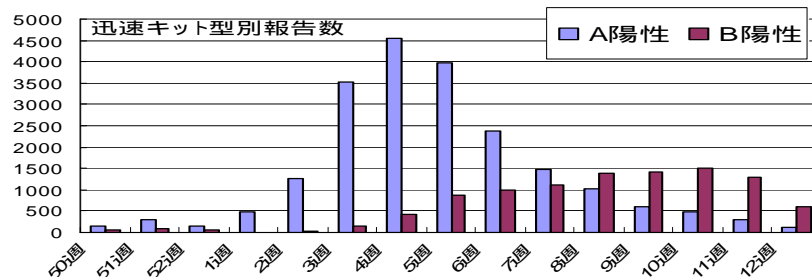
## 1 患者報告数推移

第 50 週(12 月 13 日からの週)で、流行の目安となる定点当たり1を超え、第3週には 28.35 と、**注意報域(定点あたり 10 以上)**となり、第4週には 40.05 と、**警報域(定点あたり 30 以上)**となりましたが、そこをピークに漸減し、第 10 週(3月7日~)18.20 と、ごく小さな2つ目のピークが見られましたが、以後漸減しています。



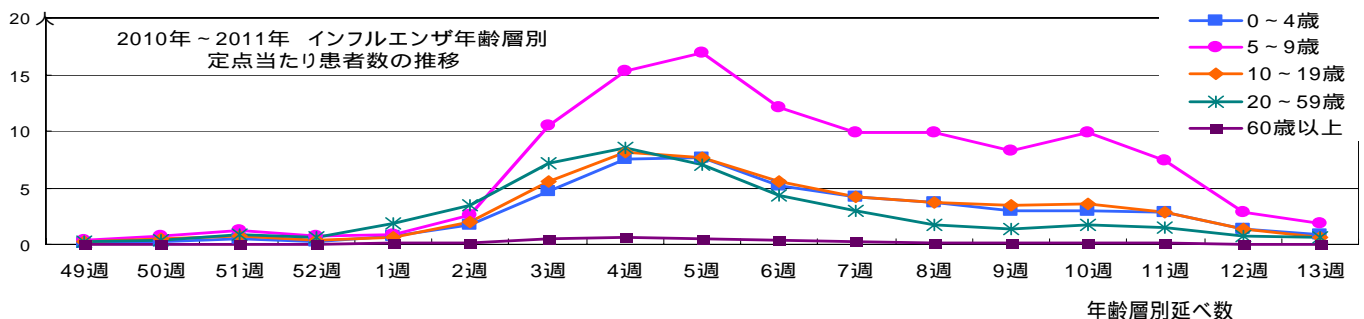
## 2 迅速キットによるウイルス型別推移

A 型のピークは第4週で、B 型のピークは第 10 週です。当初の流行は A 型が優勢でしたが、第8週以降から B 型が優勢になっています。

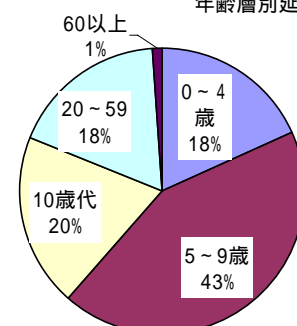


## 3 年齢層別推移

5 ~ 9 歳の報告数が最多で、第 10 週に2つ目のピークを呈しましたが、B 型の感染が増えたことによると思われる。他の年齢層では、それほど第2のピークは明らかではありません。

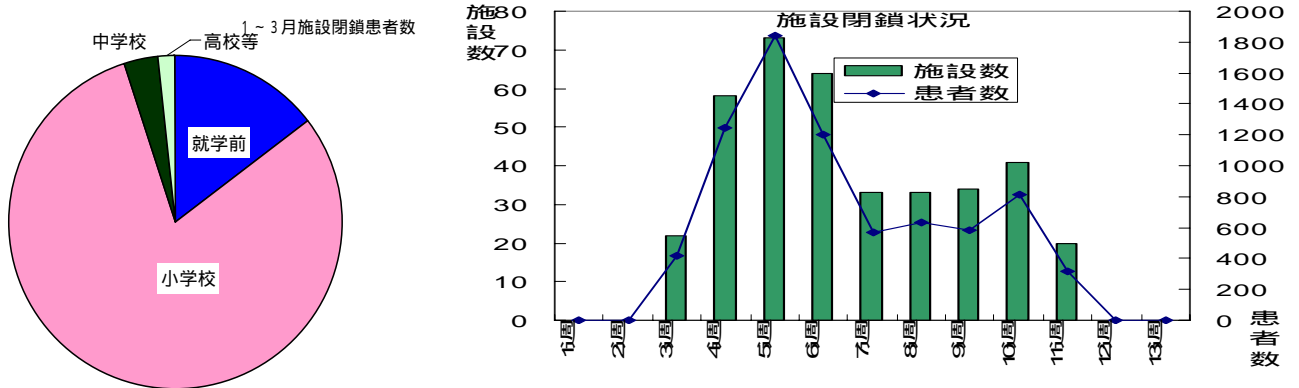


流行の目安を超えた第 50 週からの延べ患者数ですが、10 歳未満で約6割を占め、20 歳未満で約8割です。今シーズンのインフルエンザは、若年の罹患率が高かったと思われる。



#### 4 施設閉鎖状況

第5週の施設数 73 件 患者数 1845 人とピークでした。第10週にも 41 件 814 人と第2のピークが見られましたが、春休みにあたる第 12 週以降は報告数がゼロとなっています。1月からの施設閉鎖での延べ患者数の割合は、就学前が 1122 人で 15%、小学生が 6110 人で 80%でした。



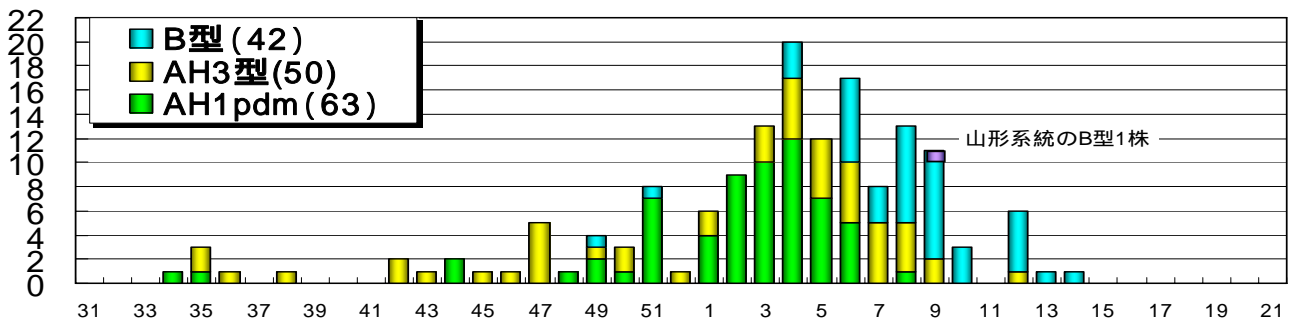
#### 5 過去との比較

1月に入り注意報域となり、述べ患者数4万人前後でした。昨シーズンの新型インフルエンザを除いた例年のインフルエンザの流行と同様の傾向でした。

	流行の開始	注意報開始	警報の開始	警報値継続	ピーク週	ピーク値	実報告数	市内主流株
2004/2005	第3週	第3週	第6週	6週間	第7週	51.97	37275	香港 B
2005/2006	第52週	第3週	第4週	6週間	第5週	34.21	22837	ソ連 香港
2006/2007	第4週	第8週	-	-	第11週	26.8	21003	香港 B
2007/2008	第44週	-	-	-	第5週	8.19	11722	香港 B
2008/2009	第49週	第3週	第4週	9週間	第4週	45.98	36574	ソ連
2009/2010	第32週	第41週	第43週	10週間	第44週	39.18	52066	新型
2010/2011	第50週	第3週	第4週	8週間	第4週	40.05	37084	香港 新型 B

#### 6 病原体検出状況

今シーズン当初は A 香港型が多く、1月に入り新型が主となり、第8週からは B 型が主となっています。シーズンを通してみると、A 香港型、A 新型、B 型それぞれが時期をずらして流行していました。



#### 【お問い合わせ先】

横浜市健康福祉局健康安全課 045 (671) 2463  
 横浜市衛生研究所 検査研究課ウイルス担当 045 (754) 9804  
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 045 (754) 9815